

「箱」がある道

一人とまち、人と道が関わるしかけー

疲れたー。

僕は道に座り込んだ。

ずーっと坂道を登っているのに、まだぜんぜん着かない。

そんな僕を見て、お父さんは立ち止まった。

怒るでも、あきらめるでもなく

お父さんは自分のふるさとの話を始めた。

僕が生まれる前に、お父さんが住んでいた町には

そこら中にハコがあったって

今みたいに疲れたときはハコに座って休むんだと。

『あの街には、ミュージアムロードっていう名前の坂道があったな。

やま側からはま側にかけて

動物園、駅、広場、美術館、道沿いになんでもあった。

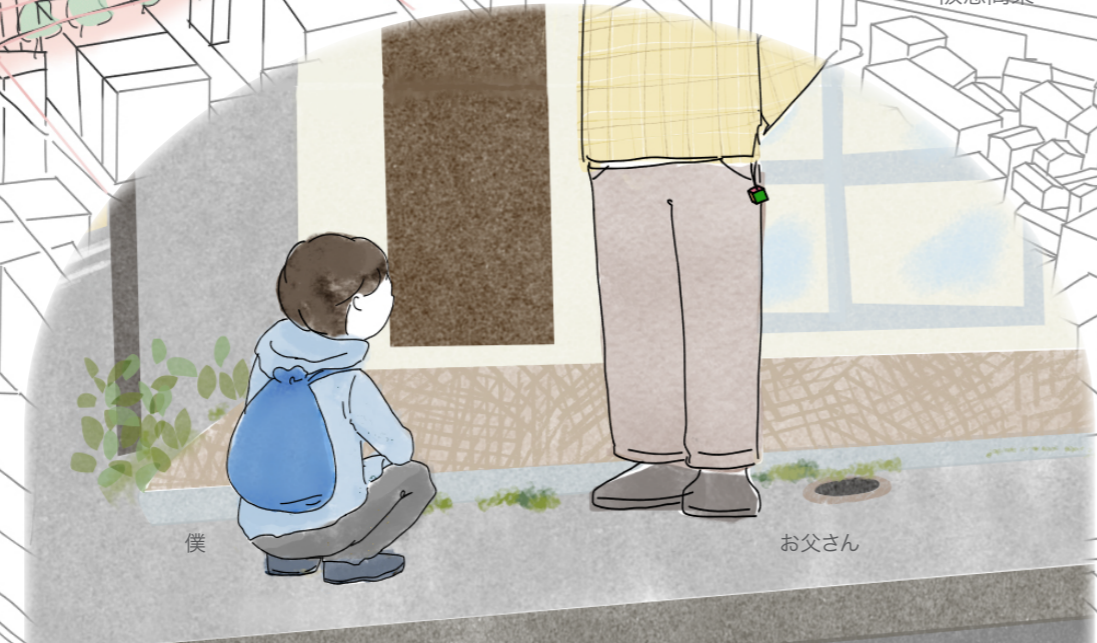
道はとにかく緑、黄、赤、白、ピンク、オレンジで彩られ

どこからラジオや楽器の音色が聞こえてくるにぎやかな場所なんだよ。』

Zooロード PARK (※1)

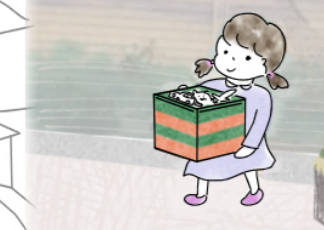
阪急高架

JR 灘駅



僕

お父さん



お父さんたちは幼稚園のころ、「箱」のルールを教えられて、そのルールさえ守ればどんな使い方をしても良かった。お父さんは自分のおもちゃ箱に使ったりもしていた。

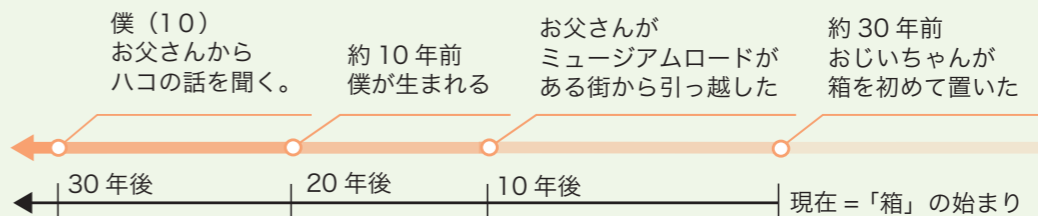
「箱」

ミュージアムロードにある特別だけどこにでもあるような箱

ハコ

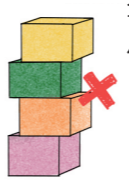
僕はまだ「箱」を知らない

～僕とお父さんとおじいちゃんの物語～



「箱」のルール

- ① 重ねていいのは3つまで
- ② 「箱」に沿って使う
- ③ 自分たちで安全に使う

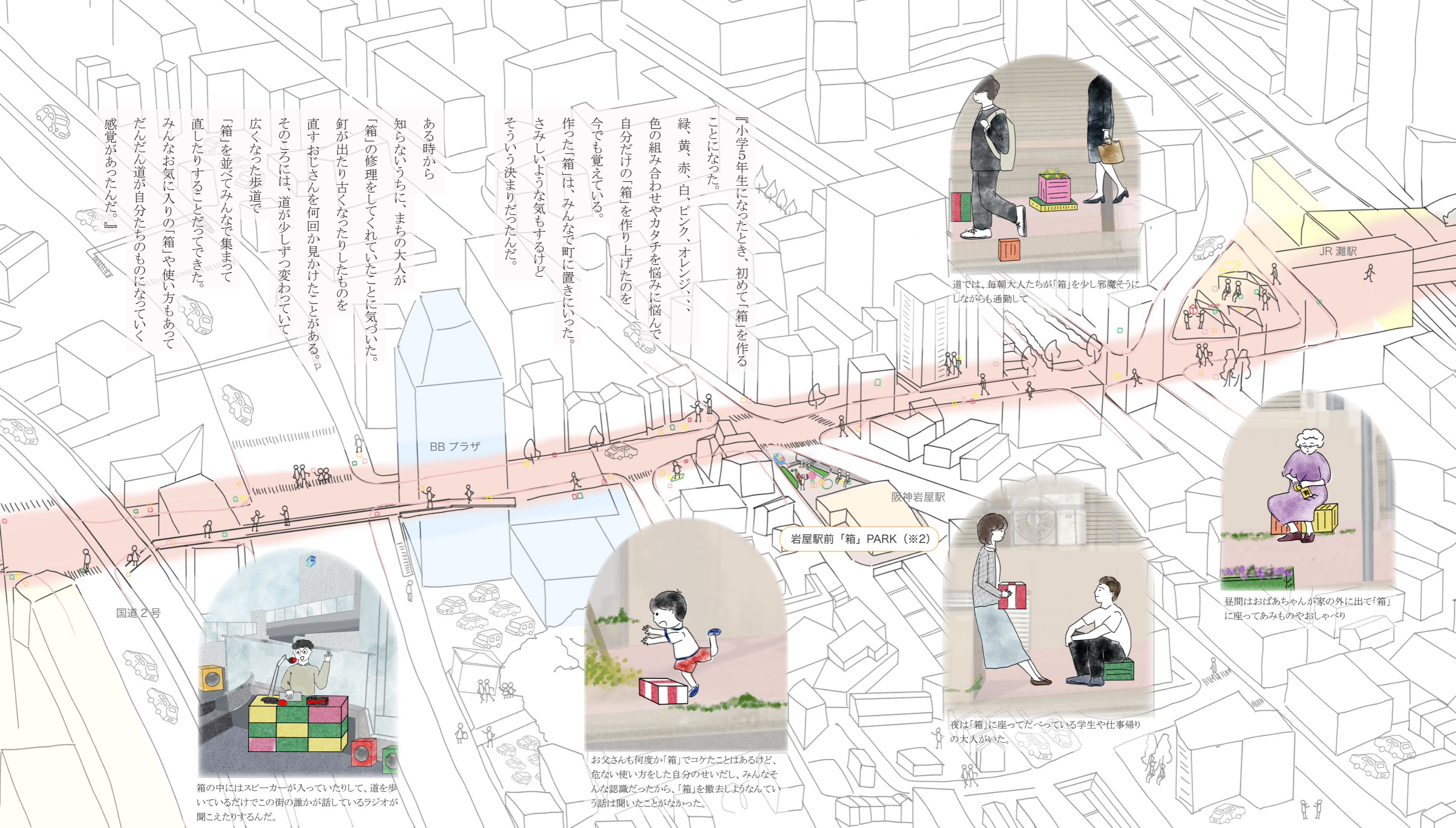


ZOOロード PARK

やま側の北エリアの道を、「コミュニティ道路」にする。現状、ややカーブしているが、歩道の幅員が十分でなく、二車線ある車道も通行量が少なく、活用の余地がある。(※1)



- ① 歩道にメリハリをつけて拡幅
- ② 車道と歩道の段差を解消
- ③ 片側一車線
- ④ 広くなった道に「箱」を置く

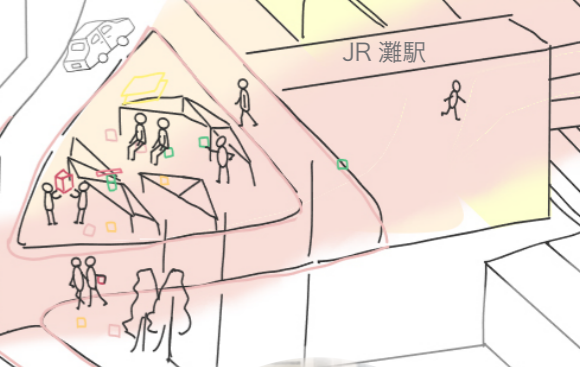


『小学5年生になったとき、初めて「箱」を作る
ことになった。
緑、黄、赤、白、ピンク、オレンジ、
色の組み合わせやカタチを悩みに悩んで
自分だけの「箱」を作り上げたのを
今でも覚えている。
作った「箱」は、みんなで町に置きにいった。
さみしいような気もするけど
そういう決まりだったんだ。

ある時から
知らないうちに、まちの大人が
「箱」の修理をしてくれたことに気づいた。
釘が出たり古くなったりを
直すおじさんを何回か見かけたことがある。
そこには、道が少しずつ変わって
広がった歩道で
「箱」を並べてみんなで集まって
直したりする」ことだててきた。
みんなお気に入りの「箱」や使い方もあって
だんだん道が自分たちのものになっていく
感覚があったんだ。』



道では、毎朝大人たちが「箱」を少し邪魔そうにしながらも通勤して



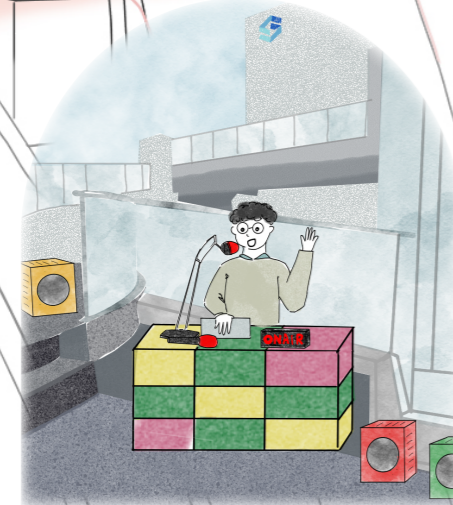
昼間はおばあちゃんが家の外に出て「箱」に座ってあみものやおしゃべり



夜は「箱」に座ってだべっている学生や仕事帰りの大人がいた。



お父さんも何度か「箱」でコケたことはあるけど、危ない使い方をした自分のせいだし、みんなそんな認識だったから、「箱」を撤去しようなんていう話は聞いたことがなかった。



箱の中にはスピーカーが入っていたりして、道を歩いているだけでこの街の誰かが話しているラジオが聞こえたりするんだ。

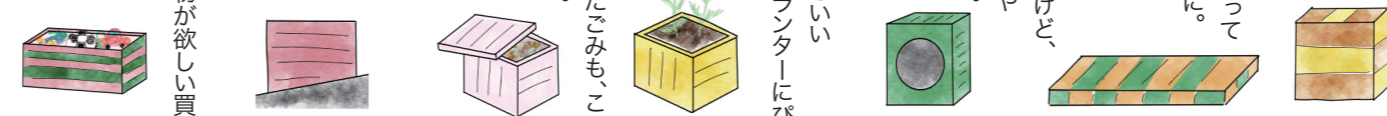
「箱」を作るときは？

・使えるのは美かえるカラーだけ
小学5年生以下は大人と一緒に
作ったら「箱の道」へ！



「箱」辞典

- ・「箱」
座ったり机にしたり、
使い方は無限大。
- ・平たい「箱」
寝そべったり、上に乗って
自分だけのステーションに。
- ・スピーカー「箱」
見た目はただの箱だけど、
空いた穴からラジオや
音楽が聞こえてくる。
- ・「プリンター」箱
蓋がなくて、ちよつどいい
隙間があいた箱はプリンターに
ぴったり。
- ・「コンポスト」箱
落ち葉やちよつとしたごみも、こ
こに集めれば肥料に。
- ・「ななめ」箱
坂道でも座りやすい、
地面にくっついた箱。
- ・「ふたなし」箱
おもちゃ箱や、入れ物が欲しい買
い物帰りにも。



岩屋駅前箱PARK

ミニシアタムロードの中間に位置
する場所であり、すでに駅舎や広
場のカラー舗装などが施されてい
る。そんな岩屋駅前を、「箱の道」の
ひとつの拠点とする。(※2)



- ① 箱をつくる、メンテナンスする道具と場所
- ② 傷んだ箱を見つけたらおいておく場所
- ③ DJブース

『それだけでは大変だからか
単にみんなでお祭りをしたいからか

「箱」は定期的に集められていた。
その名も「大美かえる祭」だ。
みんながまちを歩き

一箇所に「箱」を持ち寄って
一つの「大美かえる」を組み立てる。
その「大美かえる」の1ピースになれるのは
安全な「箱」だけだから

この祭りで、まち中の「箱」がきれいになるんだ。

そうして、もう一度道にちりばめられた「箱」は
古くなって作られて、また使われる。
そうやって今も少しずつ増えて

その分だけ、たくさんの方があのまちに関わっているんだ。』

お父さんの話を聞いていると、
ハコがあったら、あんな遊びやこんな遊びも
できるんだろっつなあというんな想像した。

〜お父さんは最後にこう続けた〜

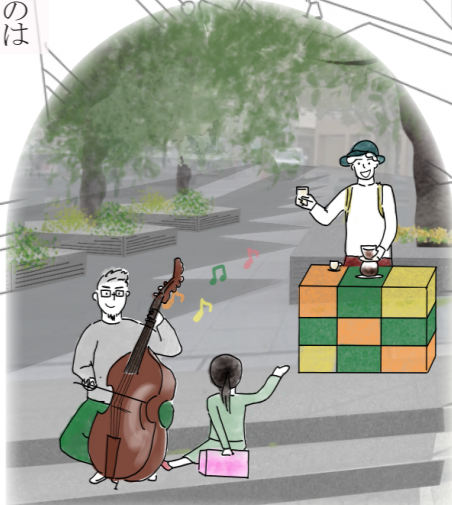
『今から何十年前のまだ「箱」がないころ、
お父さんのお父さん、つまりおじいちゃんたち青年会のみんなが
ミュージアムロードアイデアコンペに参加して、
たくさん話し合ったんだ。
ミュージアムロードといっても

自分たちにアートは分からないし
こんな長い道を歩いたら疲れてしまっただろっつと
最初は否定的な声が多かった。

でもだんだん、アートを「自分たちごと」として考えることも
できるんじゃないかって意見が出てきた。
アートは誰かが決めるものでもないし、作者がいなくてもいい。
自分たちの暮らしや文化、その営みが道に表れた風景
それもこの場所にしかないアートだろっつと。

そんな地域の人たちの暮らしを道に展開し
さらに、通りすがりの人たちも巻き込む装置
つまり、この街への「関わりしろ」を生む装置をつくるつと。
そのひとつのアイデアとして生まれたのが「箱」だったんだ。』

これが、この物語の始まり。



ちょっと珈琲を飲みたいときにも、いつでも
どこでも座っている。いつもの道具さえあれば、
思いついたときに道で何でもできるんだ。

オリーブ畑 PARK (※3)

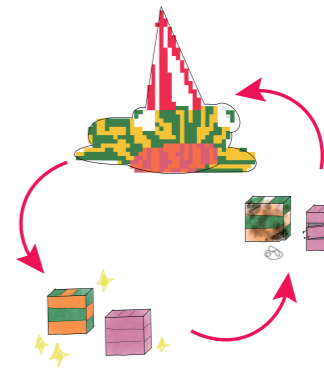


兵庫県立美術館

神戸港

「大美かえる祭」とは？

ミュージアムロード周辺に散らばる「箱」を一年に一回、集める日。「箱」は美かえるカラーで統一されているからたくさん並べれば「大美かえる」のモザイクアートに！



ミュージアムロードを育てるためのロードマップ

箱を置いてみよう

まずは二十個だけ置いてみる。
どんな置き方がいいか
どんな問題が起きるか
試すたびに、みんなで
ルールを考える。

歩道を広げてみよう

毎年百個ずつ増やして
みる。「箱」が増えたら
歩道を広げたくなっ
てきた。「箱」を直したり
プラントナーを置いたり
道が居場所になる。

ホコ天にしてみよう

もともと車通りの少
ない道で、実験的にホ
コ天にしてみる。いつ
もよりたくさん「箱」
を並べ、路上演奏会
や祭の屋台を楽しむ。

PARKをつくらう

動物園前のミュージ
アムロード、若屋駅前
広場、県立美術館前
にあるオリーブ畑を「
箱」PARKにする。

文化をつくらう

十年経てば、「箱」は
千個になる。ミュージ
アムロード全域に散
らばった「箱」は、全
ての過程で関わる人
をつないで、地域の
文化になる。

オリーブ畑 PARK

HAT前の車道の中央分離帯を
オリーブ畑にする。樹勢が強く丈
夫なオリーブは、海の近くでよく
育つ。緑生い茂る場所は、みんな
が遊べるひろばになる。(※3)



①オリーブの収穫箱にも
②箱で遊んだり、木陰で休んだり